

---

# 輝く花のように

桜

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

輝く花のように

### 【コード】

N6112A

### 【作者名】

桜

### 【あらすじ】

貴方という光を浴びて、私は輝く……

太陽のような人だ。

なんて、使い古された、在り来たりな言葉でしか表現できなくなるほど、正にそんな人だった、洋太は。

ああ、今日も空が真つ青だ。

私は日課である水やりをするために、カラカラと音をたてる大きな窓を開き、ベランダに出た。

陽の光を帯びてキラキラと反射する水を受け、花たちが笑い合うように輝くのを眺め、ふっと笑みをこぼす。

恋する可愛い女の子、宝石の似合う美しい女性、素朴な温か身のある母、やわらかな表情や凜とした立ち姿は生き生きと輝く。

なんて素直に、そして鮮明に輝くんだろう。

洋太の前の私は、こんな風に輝けてるのかな。

もし、この光彩を放っているのであれば嬉しいな。

うん、でも、輝けていないならもっと私が努力すればいいのよ。

今日は久し振りに洋太とデート。

私は、洋太と会える日、そのつど初デートみたいに胸がドキドキと高鳴って、ただの恋する女の子に戻ってしまう。

初恋は中学生の頃だったから、10年も過ぎてるっていうのに。

洋太は特別。

私にとって洋太は特別。

漠然とただ特別だと感じる。

まるで前世で恋中だったとか、そんなバカみたいに乙女チックなことを考えてしまうほど濃く。

漂っていた思考の波から顔をあげ、太陽を見上げ深呼吸した。  
うん、いい気持ち。  
もうすぐ会えるわ。

さあ、待ち合わせまであと2時間。  
シャワーを浴びて、メイクして、昨日選んだ服を着て、私は貴方に  
会って輝くの。

太陽と水を受けて、キラキラと輝く花のように。

私は再度、花を見つめ微笑んだ。

終わり

(後書き)

初小説、超短編読んでいただきありがとうございます！

恋人を好きで好きでたまらなくて、そして花が大スキな女性を書きたかったんですが…

ん〜…批評などいただければ有難くお受けして、見直してみたいと思います。

よろしく願います(^^)

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n6112a/>

---

輝く花のように

2011年1月20日05時34分発行